

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	生産緑地管理事業					事務事業コード	01809
部 名	都市建設部	課 名	みどり公園課	係 名	みどり公園係	部課コード	050300

1. 事業概要

総合計画コード	5312	4111		
事業年度	年度 ～ H	年度	事業類型	●ソフト事業 ○ハード事業
法令等の義務付け	●法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ○義務と任意の両方を含んでいる事業 ○任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務		<根拠法令等(法律、条例、要綱など)> 生産緑地法	
めざす 目的成果	残存する農地等が、生産緑地地区として適切に保全・管理されている。			
事業内容	生産緑地地区の指定や解除、変更などの都市計画決定事務、生産緑地地区台帳の整理、指定に伴う標識の管理を行う。			
事業手法	☐ 市の完全な直営 ☒ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☐ 市民等との協働 ☐ 補助金交付			
	都市計画決定変更図書の図面の作成業務や生産緑地台帳の修正業務等を一部委託している。			

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容			生産緑地地区の指定や解除、変更などの都市計画決定事務を行う。 ・都市計画決定変更回数 3回 ・生産緑地都市計画決定変更図書作成業務の実施(都市計画決定図書、総括図・計画図の作成)2回 ・生産緑地地区台帳補正業務の実施 1回 ・生産緑地指定標識等設置工事の実施(新設・変更による設置・撤去) 2回									
			単位:千円		H26年度決算		H27年度決算		H28年度決算見込			
投入コスト	a 事業費[イ]～[ホ]				1,454		1,352		1,735			
	財源内訳	[イ]国庫支出金										
		[ロ]県支出金										
		[ハ]地方債										
		[ニ]その他										
	[ホ]一般財源			1,454		1,352		1,735				
b 人件費				1,466		1,832		5,496				
総コスト(a 事業費 + b 人件費)				2,920		3,184		7,231				
投入労働量		常勤職員等(人工)		0.20 人		0.25 人		0.75 人				
		一般職非常勤職員等(時間)		時間		時間		時間				
a 事業費 (H28年度決算見込)の執行内訳			・委託料(生産緑地都市計画決定変更図書作成業務委託)958千円 ・工事請負費(生産緑地指定標識等設置等)777千円									
指標名			単位	H28目標・計画	H29目標・計画	H30目標・計画	最終目標・計画					
				(H28実績見込)	(H29実績見込)	(H30実績見込)	目標年度					
活 動	①	都市計画決定変更回数	回	2 (3)	2 (—)	2 (—)	2 H 32 年度					
	②	台帳補正業務回数	回	1 (1)	— (—)	— (—)	3年に1回実施 H 32 年度					
成 果	①	都市計画決定変更平均所要日数	日	120 (84)	120 (—)	120 (—)	120 H 32 年度					
	②						H 年度					

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い	☐ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
	☐ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☐ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☒ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☐ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☐ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 生産緑地法により、生産緑地地区の指定や解除、変更などの都市計画決定事務について、市の実施が義務付けられている。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☒ B 概ね目標の成果が得られた	☐ C 目標とする成果が得られなかった
	☒ 活動指標の目標を達成した ☒ 成果指標の目標を達成した ☐ 指標に表れない事項について目標を達成した ☐ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 生産緑地の追加指定が3件及び解除が4件あり、そのための都市計画決定事務を適切に行った。また生産緑地地区の台帳補正を実施し、活動指標を達成した。成果指標についても申請から都市計画決定までを速やかに行い、目標を達成した。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 市街地の農地等を保全し、良好な都市環境を形成し、市民の生活に潤いを与えた。 参加と協働: 都市計画決定の際には、都市計画審議会で審議を行った。 経営的な視点: 指定や解除の事務を効率的に行った。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☒ I 見直す余地がない	☐ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
	☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☐ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☐ その他 <説明> 生産緑地区の指定解除後、変更などの都市計画決定事務は、適切な手順で実施されている。			

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期: ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
今後の取組方針	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		労働費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		☐ A 見直して継続 ☒ B 現状のまま継続		
	見直しの方向性	☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 業務プロセス改善 (実施時期: H 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ その他 (実施時期: H 年度)		
		方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)		
今後も生産緑地地区の追加指定を実施する。 都市計画変更の事務手続きを速やかに行う。				